

命の大切さを実感させること（高等学校）：目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	自尊感情を高める体験をする。 生と死に関する様々なテーマについて関連する情報を調べる。	自己発見の体験をする。	死に関する身の回りの出来事や、事件等を思い起こしたり、周囲の意見を聞いたりしておく。	老・病・死に向き合うことについて考える。	
1次 (1時間)	老・病・死に関する自分のテーマを決め、訪問先(ホスピス等)について調べ理解を深めた後、連絡をとる。	老・病・死に向き合う人、支える家族、医療関係者、ボランティア等の人々の思いに気づく。	訪問先の人々の様々な考えや生き方にふれ、多様さを受けとめるとともに、生と死の重みを感じる。	訪問先の人々の生き方に思いをはせ、自分のこれからの生き方と重ね合わせて考えることができる。 訪問するために必要な準備について考え行動することができる。	個々の子どものテーマを掘り下げるとともに、自身の生き方について真剣に考えさせることができたか。
2次 (2時間)	施設を訪問し、ボランティア活動やインタビューすること等をおして、人々の生き方や思いにふれる。	老・病・死に向き合う人々を身近にして、自分の心の動きを素直に感じる。	死の悲しみ、苦しみや生の喜び等、生と死をめぐる多様な考え方や思い等を受けとめる。 死の悲しみや苦しみと向き合いながらも、強く生きようとすることの尊さを感じる。	死の悲しみや苦しみによる心の痛みや悲嘆の深さを思いやり、命の重みについて考えることができる。 限りある命を生きるとはどうか等、自身にとっての生の意味について考えることができる。	死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させることができたか。 自分も限りある生を生きる者として、老・病・死に向き合う人々と自身を重ね合わせて考えさせることができたか。
3次 (2時間)	討議や体験レポートの作成をおして、体験を振り返り、整理し、自分自身の生きる意味を考える。	討議や体験レポートの作成をおして、自身が体験したことを整理し、生や死等「命」について考えることの大切さを実感することができる。	生や死等「命」についての多様な考え方にふれ、死の悲しみや苦しみと向き合いながらも強く生きようとすることの尊さを感じる。 自分自身の生きる意味を考えることができる。	生や死についての考察をおして、困難な中でも、それに打ち勝とうと立ち向かう人々の思いを推し量ることができる。 限りある生を精一杯生きることの素晴らしさを実感することができる。	命の大切さを実感させることができたか。 自分自身の生きることの意味を考えさせることができたか。